

果樹王国たかはたの復興のため 就農支援とコラボ商品展開



くだもの島の直売所。さくらんぼ、もも、ぶどう、ラ・フランスと加工品を販売している。季節限定オープン

農事組合法人くだもの島 (高島町)

内容 果物加工商品開発・販売直営所
新規就農支援と受入施設

6次産業化の取組に至った経緯

高島町においても農家の高齢化、後継者不足などによる、耕作放棄地の増大が深刻な問題になっている。くだもの島は、高島町が抱える諸問題により、ふるさとの美しい風景が変わっていく、果物産業が衰退していくことに「なんとかしなければならぬ」と同じ想いの4人が、平成24年に任意団体として活動を開始した。その後、平成27年2月には、農事組合法人くだもの島に法人化した。代表理事の佐藤尚利さんと3名の理事の今野直樹さん、齋藤政考さん、嶋倉直樹さんは、各自果樹園経営をしており、個人ではできないことをくだもの島として活動している。

まず農地を集めることと研修生の受入体制整備を進めることから始めたが、借り受けた農地からの生産物の販売やくだもの島の知名度アップとブランド確立の目的で6次産業化に取組むことにした。6次産業化で、高島町の果物の魅力を多くのの人に知ってもらおうきっかけづくりも視野にいた。

6次産業化の取組内容

6次産業化の取組みとしてジュースの加工から始めた。通常加工用の原料にはC品が使用されるため価格も低く設定されるのが一般的だが、くだもの島は、生食でも美味しいものをあえて加工用の原料としている。また、ジュースのビンにはフロストの720mlにして高級感を意識した。会社のロゴやラベルのデザインについても、自分たちの想いが伝わるものにして、他との差別化とブランド強化を図るようにした。



直売所。同じ敷地内に研修生の受入施設がある

取組みの成果

生食でも美味しい果物を原料にして加工している3種類のジュースは、年間を通じて売れ行きは好評だ。

また、くだもの島のラ・フランスを山形市のシベールで加工し、JR東日本グループで販売するコラボ品として、ガレットとパイを商品化した。平成28年から販売を開始したが、販売当初より好評で、3年目となる平成30年は、初年度より約3倍の原料を出荷したにも関わらず9月で完売するほどだった。山形・高島の果物の魅力を発信するということについては、JR東日本の首都圏と地域の間で「ヒト」「モノ」の循環を創出する「地域再発見プロジェクト」の一環でのコラボ商品であり、成果を実感できた。

今後の事業展開

直売所と併せて整備した研修生受入施設には、現在、新規就農を目指す宮城県出身者が生活しており、独立に向けて研鑽を積んでいる。仙台で開催した農業人フェアでの出会いがきっかけになっている。また、山形県立農林大学の短期体験受入施設としても活用しており、今後も短期・

長期の研修生、新規就農者を積極的に受入れ、人材の育成と併せて耕作放棄地の解消にも力を入れていきたいと考えている。現在は、町の方でも新規就農者の受入体制づくりの強化を進めている。

今後、くだもの島として、さまざまな事業展開を行っていくために、果物の生産量をあげ、加工品も含めて売上をあげて雇用にも結びつけるほか、新規就農者に加え、農家の後継者にも参加してもらい、新たなビジネスモデルとして、高島町の復興に努めたいと考えている。

直売所については県道沿いの立地であり、アンテナショップという位置づけで季節限定オープンではあるが、旬の果物と加工品を販売することでくだもの島の認知度アップに繋がっている。

生産、くだもの島・加工、シベール・販売、JR東日本グループのコラボ商品



事業者概要



理事 嶋倉 直樹さん 理事 齋藤 政考さん
理事 今野 直樹さん 代表理事 佐藤 尚利さん
(左から順に)

農事組合法人くだもの島

代表者 佐藤 尚利
住所 東置賜郡高島町大字三条目293
直売所 東置賜郡高島町泉岡611-3
電話 080-2823-4183(直売所直通)
URL <http://kudamonobatake.com>



もも畑



委託加工しているジュース